



10
935



長明

吾妻鑑第九云 建曆元年未十

月十三日辛卯鴨カモ杜ト氏ノ人ト菊キク大オホ丈ツチ長チカ明ミ入イ道ミチ法名 道胤依ヨ

雅ニ經キ朝チウ處シ之ノ舉キ乎カ此コ間マ下カ向カ奉ホウ錫シキ將シヤウ軍クン家カ實ジツ朝チウ

及キ度ト々々云ク而シテ今イマ日ニ當マ幕マク下カ將シヤウ軍クン御ミ志シ矣ナリ彼カ

法ホウ苑エン堂ドウ入イ念ネン誦ソウ讀ドク經キヤウ之ノ間マ懷アイ舊キウ之ノ淚ナミダ相アイ作シ註シ

一ヒト音オン歌カ於オ堂ドウ柱シユ

くさも本とたれさし 抑々シテあはれ

ひるまよこけとさし 抑々シテあはれ

千載集とさし 抑々シテあはれ

一音入とさし 抑々シテあはれ

古のそととさし 抑々シテあはれ

平家

二

鴨長明

あひのりらうらわさるる言はまらうと後迄とていひまら

新古今集

鴨長明

世のつらさるる言はまらうと後迄とていひまら
あひのりらうらわさるる言はまらうと後迄とていひまら
あひのりらうらわさるる言はまらうと後迄とていひまら

あひのりらうらわさるる言はまらうと後迄とていひまら
あひのりらうらわさるる言はまらうと後迄とていひまら
あひのりらうらわさるる言はまらうと後迄とていひまら
あひのりらうらわさるる言はまらうと後迄とていひまら
あひのりらうらわさるる言はまらうと後迄とていひまら

あひのりらうらわさるる言はまらうと後迄とていひまら
あひのりらうらわさるる言はまらうと後迄とていひまら
あひのりらうらわさるる言はまらうと後迄とていひまら
あひのりらうらわさるる言はまらうと後迄とていひまら
あひのりらうらわさるる言はまらうと後迄とていひまら
あひのりらうらわさるる言はまらうと後迄とていひまら
あひのりらうらわさるる言はまらうと後迄とていひまら
あひのりらうらわさるる言はまらうと後迄とていひまら
あひのりらうらわさるる言はまらうと後迄とていひまら
あひのりらうらわさるる言はまらうと後迄とていひまら

三



夕陽 暮れゆく人あはれ
 解つては中やを後にまを
 るをばあてうらせむらさ
 らくこゝろ あれのみやう
 こころをいへるこころざり
 ののこころ思乃にあり
 りてはをの申れえり
 るにやとゆつこころ
 金剛 慈夢 幻泡 散 輝
 露亦 如 電 と 疾 ぬ り
 おしるゝ おまののや
 りとあまのつらりのうら
 らしきやうり
 りらう かつらのこころの
 りるまをたぬ人のとぬる
 らるゝをたぬるもつ

十人分中よ。いひつらひのりからう
 とに死し。いひつらひのりからう
 泡はあつりけり。いひつらひのりからう
 人何なり。いひつらひのりからう
 らどらりのり。いひつらひのりからう
 何ふらり。いひつらひのりからう
 りと。いひつらひのりからう
 去る。いひつらひのりからう
 あら。いひつらひのりからう
 と。いひつらひのりからう
 身。いひつらひのりからう



生都不知生生前來
世猶來世全無辨世
世終云

又云... 李太白

春夜宴桃李園序曰
夫天地者萬物之逆
旅先隲者百代之邈
容而淨生苦數

そのまじしとみわやせまき
をわくそひもきけいんがね
がけのちぬよとあはれど
いんごうのめいごうのりつ
らん古今のちよふゆんや
のちのちのちのちのち

しそむくぞいひんごのれす六條より
あてをみけらむとくどくどくたはら
三分がすよ及べりもぞ男女死あるりの
教ふんご牛のたひもはたとくべ
んらむとあみあひるる申あはれとあ
やうんあ中のあまと作るわええと
貴しとて怒あつとていんごまきとあ
らあそむるるに又はあ宮年卯月
廿九日のころはあ門ああああああ
るるはあああああああああああ
しあああああああああああああ

一々の御事...
 一々の御事...
 一々の御事...
 一々の御事...
 一々の御事...
 一々...
 一々...

夫... 一々...
 夫... 一々...
 夫... 一々...
 夫... 一々...
 夫... 一々...
 夫... 一々...
 夫... 一々...

一々... 一々...
 一々... 一々...
 一々... 一々...
 一々... 一々...
 一々... 一々...
 一々... 一々...
 一々... 一々...

夫... 一々...
 夫... 一々...
 夫... 一々...
 夫... 一々...
 夫... 一々...
 夫... 一々...
 夫... 一々...

南面皇城門是謂珠
 櫺門
 也此年治兼ト開元
 也
 也此年治兼ト開元
 也



大極殿 同云朝堂院
 正殿名云八蒼院是
 又謂之寂大殿天子
 臨朝即位謂前告朝
 所或云號朝堂院
 大學寮 縱壬生橫二
 條西南解也
 民部省 縱西洞院橫
 春日東北角也
 一稱作之灰とがりのこ
 阿房官賦楚人一炬
 可憐焦土
 樋口富小路 樋口小
 路主事あはれもあ
 まりもわらわらま
 するあはれもあはれ

焚くさきさきりふくるりほろとていぬ敷百
 果とるるりよめてわらわらあはれ
 りるるあはれいぬ敷をのふもささる
 焚あつたてりやもささるるるる
 りるるるるるるるるるるるるるる
 大なるるるるるるるるるるるるる
 どの人推るるるるるるるるるるる
 のとるるるるるるるるるるるるる
 るるるるるるるるるるるるるるる
 りるるるるるるるるるるるるるる
 りるるるるるるるるるるるるるる
 りるるるるるるるるるるるるるる

辨

性のすこやうなんくる

のほりてみる燃のの

れおのるもよ

養和 天徳天皇年号也

系なるゆふはせそとを

りとの田をことふの心

穀物本薪ふれおのる

田をりこととふの心

このやふとふとつらあ

へど 節制^{ツノ}之^{ツノ}事^{ツノ}也^{ツノ}曲^{ツノ}礼^{ツノ}

云^{ツノ}君^{ツノ}子^{ツノ}饒^{ツノ}貧^{ツノ}不^{ツノ}辨^{ツノ}祭^{ツノ}

對無弊不天祭服

論語子

日誦韓^{ツノ}之^{ツノ}婚^{ツノ}關^{ツノ}聘^{ツノ}之^{ツノ}

礼記仲^{ツノ}也^{ツノ}孟^{ツノ}耳^{ツノ}也^{ツノ}

るやいよふきそりたおきよふしほつし

とらふんくしほむきとつしとらふんく

おあまて愛とつしとらふんくつしと死首

乃るあるとつしとらふんくつしと縁とつし

たもつしとらふんくつしとつしとつし

めんとつしとらふんくつしとつし

まはるの申一系とつしとつしとつし

系後とつしとらふんくつしとつし

あるとつしとつしとつしとつし

きとつしとつしとつしとつし

あつしとつしとつしとつし

とつしとつしとつしとつし

とつしとつしとつしとつし

とつしとつしとつしとつし

とつしとつしとつしとつし

とつしとつしとつしとつし

とつしとつしとつしとつし

とつしとつしとつしとつし

とつしとつしとつしとつし

とつしとつしとつしとつし

とつしとつしとつしとつし

とつしとつしとつしとつし

とつしとつしとつしとつし

とつしとつしとつしとつし

とつしとつしとつしとつし

とつしとつしとつしとつし

とつしとつしとつしとつし

とつしとつしとつしとつし

とつしとつしとつしとつし

とつしとつしとつしとつし

とつしとつしとつしとつし

とつしとつしとつしとつし

とつしとつしとつしとつし

此の如くともくもくして
 人の名はあやふいふ
 だにともあつたあつた
 らははのともあつた
 仁年寺隆亮法印 未考
 阿字 八識阿中阿
 字が生死無常無
 又阿本不生非羅
 國靈妙寺僧不取思
 識釋阿秘密中秘釋
 者阿字自説本不
 名化 色ハ修トス
 こつた此あり
 元曆 後鳥羽院年号也
 此の如くともくもくして
 壯子勝徳羅云夫此

とりて流や教の海よりあつた
 堂法座として全うた
 らもつた
 性のとて地の名もあつた
 かつた
 まつた
 見れ
 流
 この中
 あり
 ひ



何れもやあはれなるものか
来りしやまのひのりゆらん
あまの せみや比也有
三蔵怖魔破惡云云
出家將論生死飛於
魔意故魔而名怖魔
又出家破集四七支
之惡故云破惡云云
譚上於諸佛云法下
於衆生云食也
りあしらすまきあひのこ
よまらるるれりまらるる
古今集
昔れれのをぬらぬのんま
あふんしはゆりまれ
うると人の二枚のあ ち

あしらすまきあひのこ
よまらるるれりまらるる
あふんしはゆりまれ
うると人の二枚のあ ち
あしらすまきあひのこ
よまらるるれりまらるる
あふんしはゆりまれ
うると人の二枚のあ ち

あしらすまきあひのこ
よまらるるれりまらるる
あふんしはゆりまれ
うると人の二枚のあ ち
脚伽解 あつかひのた
かへ脚伽のの梵語
阿弥陀普賢 ねんぶのり
とと十三のうら
十三仏を 不動 妙法
延珠普賢地蔵 弥勒
薬師觀音勢至阿弥陀
阿彌大士 虚空蔵也
往生要集 惠心僧都
作也

あしらすまきあひのこ
よまらるるれりまらるる
あふんしはゆりまれ
うると人の二枚のあ ち
あしらすまきあひのこ
よまらるるれりまらるる
あふんしはゆりまれ
うると人の二枚のあ ち

お新造のさし
ふらふらなれはしおあ
まのうらうらほほえみ
とらふらうらうら
しゅわ

えねの色 莊子曰螻
蟻不知春秋

あはれはじ あはれは
いらふらふらありあ
むらふらふらありあ

あはれはじ あはれは
いらふらふらありあ
むらふらふらありあ

とらふらうらうら
てけらふらうらうら
とけらふらうらうら
乃書信とまを
て眉をえん
賢あふらふら
の信子の
らふらうら
後信性生
ありの信
ふらうら

あはれはじ あはれは
いらふらふらありあ
むらふらふらありあ

京本註

七

あはれ

あはれなるは 意心後
 都のういねを侍語
 ありて文文のころと
 とまひひのころ意心
 院より湖のあまを
 小童の 満誓沙弥
 此は小僧のたえわりの
 ころのあはれなるは
 とありしころのつねに
 ありしころ
 あはれ

あはれなるは 意心後
 都のういねを侍語
 ありて文文のころと
 とまひひのころ意心
 院より湖のあまを
 小童の 満誓沙弥
 此は小僧のたえわりの
 ころのあはれなるは
 とありしころのつねに
 ありしころ
 あはれ



うらのひそそ 攀上と
くあり

本懐山 山城拾遺集
山をたぎりのまはるいふれと
くらちもゆきとあや

御免 山城
後撰より人丸

名はそくしほ中といふと
りみらとこいふいふり

落穂とひらきくはげとみつるあ

日うらうらふとみよらよりちりてき

みねのたもとらまは懐山御免の

里をねね本陣とみんる勝地い

るけいふとちるぐさびる清らう。あ

みねのくまをみくする河のれよ

りまよつとみ。とみふと我々を

とく。あつらひまうてふ山とあひ

るえあまはの原とあく。標丸を

がゆみとあひ田上川とみりてあ

標丸とあまが標とらうぬゆとみ

もね 山城

新古今集

大原とあつたの影とみえ
をね御のたまはるうら

ねね集

後撰

りしてと神武とあつたは
あつたあつたのあつた

あつたをねねとみくする河のれよ

標丸とあまが標とらうぬゆとみ

あつたをねねとみくする河のれよ

あつたをねねとみくする河のれよ

あつたをねねとみくする河のれよ

あつたをねねとみくする河のれよ

あつたをねねとみくする河のれよ

あつたをねねとみくする河のれよ

あつたをねねとみくする河のれよ

あつたをねねとみくする河のれよ

勝地わくちのりしあふ
とあひむらりしりり
勝地本来無定
主太都山 扇愛山人
朗詠せしゆり白居
別

山いふとあふ
つるふりやとあふ
山いふとあふ
山いふとあふ
山いふとあふ

山いふとあふ
山いふとあふ
山いふとあふ
山いふとあふ
山いふとあふ

山いふとあふ
山いふとあふ
山いふとあふ
山いふとあふ
山いふとあふ
山いふとあふ
山いふとあふ
山いふとあふ
山いふとあふ
山いふとあふ

山いふとあふ
山いふとあふ
山いふとあふ
山いふとあふ
山いふとあふ
山いふとあふ
山いふとあふ
山いふとあふ
山いふとあふ
山いふとあふ

法皇太子を冠し親王とされ
蟬丸翁 會坂蟬丸仁
明天皇時之道人也
常不翻髮世人毀謗
亦仙人とも云んま書抄
子曰舎後れせよのゆわ
く尸の木の尊丸れあさ
やのあやとくしかりんし
てそとひくともありて
このあさくししりとテ
まこもあかりあさすを
ひつりさるれみさる
ゆわややく長生の家貞
は古將と云やひらんが
まのとと述りひひまらひ
ししとくしとゆわ

るるといといとすとすととをの人中心に
おと作るちりひらあうとくとおれ
とああせせとととを子春春
あつとりととと親親朋友の
作る水とととと及及及及
牛此あんととと作る我今
あよととととと人のあつと
んんとととととととととと
標ととととととととととと
のとりあつととととととと
作れんととととととととと

田河
後代を 古傳云時代
不詳或系圖云用明
天皇 聖徳太子山背
大凡王号 後九太史云
無名抄云云ある人あ
この下おそはつととと
ありそととと後九太史云
つありたれとととととと
この券あつとととととと
んかん人あつとと
後の声 謝靈運 哀
振動月
ひきのほろく
かみとととととととととと
りつととととととととと

ととととととととととととととととと
ゆいとととととととととととととと
ととととととととととととととととと
ととととととととととととととととと
ととととととととととととととととと
ととととととととととととととととと
ととととととととととととととととと
ととととととととととととととととと
ととととととととととととととととと
ととととととととととととととととと
ととととととととととととととととと
ととととととととととととととととと
ととととととととととととととととと
ととととととととととととととととと
ととととととととととととととととと
ととととととととととととととととと

わらわの声 集 末集

西行

あまのけをたをれいせ
おめそゆいさうられ
保成よものうらま
つてもわらわのこ
いんやうあひさくれ
らんへのあまをま
さるべうら

[Faded text, likely bleed-through from the reverse side]

白虎 りそめのことし暫

とともあるり

新つどりらうとそつら
るん然らとどし慈あさ
来とよ 淘洲明飯去
来辞云歸去来今請
息交以絶游
ふれあつと足のまお
外とらああわら
右の夜あまのあま飯
源公の体

論語天不怨人不尤
論 命天運よまをせく
語死生有命富貴在天
それ三界ハ 三界唯下

あまのけをたをれいせ
おめそゆいさうられ
保成よものうらま
つてもわらわのこ
いんやうあひさくれ
らんへのあまをま
さるべうら

飛舞まこつて他のかどうぶさ
あまのけをたをれいせ
おめそゆいさうられ
保成よものうらま
つてもわらわのこ
いんやうあひさくれ
らんへのあまをま
さるべうら

心外無別法

も命とあつたところ

列子もよひり

何ぞしてこれと云ふん

痴人使求冷暖自知

と云ふこと

格 此語の云ふこと

は又のひりて云ふこと

りて云ふこと又語發す

云ふことと云ふこと

の格

三途 火途 血途 刀途也

と云ふこと

金剛經曰 假我相

相衆生相壽者相則

非菩薩蓋曰衆生佛

性無有異縁有相

不入無餘涅槃有

相則是衆生無四相

即是佛迷則佛是衆

生悟則是衆生是佛

特有財寶學問族姓

輕慢一切人若我相

雖行仁義礼智信而

意高自負不行普敬

高我解行仁義礼智

信不谷敬尔名人排

好更飯已惡事施於

天軍のいふをせしめしむるは

浮世のいふをせしむるは

とせしむるは

乃よよといふは

美事よは

ちりんといふは

ちりんといふは

ちりんといふは

ちりんといふは

ちりんといふは

ちりんといふは

ちりんといふは

ちりんといふは

ちりんといふは

ちりんといふは

ちりんといふは

りんといふは

りんといふは

りんといふは

りんといふは

りんといふは

りんといふは

りんといふは

りんといふは

りんといふは

りんといふは

りんといふは

りんといふは

りんといふは

りんといふは

りんといふは

人各衆生擲對境取捨分別名壽者相起謂心支四相後行人亦有四相心有能所輕慢衆生名我相持持我輕破戒者名相厭三違毀壞諸天是衆生相也心長年勤然福業諸執不忌是壽者相也有四相則衆生無四相是佛也又曰無復我相人相衆生壽者相無法相亦無非法相何以故是諸衆生若心取相則着我人衆

然もも障りてしづむるんふ
しづむるんふしづむるんふ
さんぶがうあるあつさびとりされ
ひのほききくかひうらうらひ
しいくせとのづきく山林よまど
まんがひあてら我とこかん
まうる我母が海い聖んゆくんい
よまらう。何れもいけ浄りの居全乃
とまうせりとのとまのいとら
りひふ。周梨藥物がひふふあひも
及びとりこれ賢徳の都のまづ

生難哉若取法相則難我人衆生壽者何以故若取非法相則着我人衆生壽者是不應取法不應取非法以是故如来常說汝等比丘知我說法如筏喻者法尚應捨何況非法
淨名居士 維摩詰經
周梨藥時 仏在世のとき
の人ふかるともわらう
ゆやあつらあつら
けうけい入山のそとほりうらうら
ととおえあつらあつらあつら
とらうらあつらあつらあつら
のうらあつらあつらあつら

ゆやあつらあつらあつら
けうけい入山のそとほりうらうら
ととおえあつらあつらあつら
とらうらあつらあつらあつら
のうらあつらあつらあつら
ゆやあつらあつらあつら
けうけい入山のそとほりうらうら
ととおえあつらあつらあつら
とらうらあつらあつらあつら
のうらあつらあつらあつら

世五段

明曆六^戊正月言

昨五ノ日

長谷川

市良兵衛開之

